

## 令和4年度独立行政法人国立美術館年度計画

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

##### (1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、国立美術館ならではの多様な美術作品の鑑賞機会を提供するため、魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展等を実施する。所蔵作品展は、各館の特色を生かし、小企画展・テーマ展として行うものを含め積極的に開催する。企画展では、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、メディアアート等の先端的な展覧会、作家・作品の再発見・再評価、我が国に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、展覧会の開催に当たっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にするとともに新しい切り口や研究成果を活用した展示、調査研究、関連資料の充実、展示説明資料の工夫、批評の充実・翻訳等を含む展覧会カタログの充実等による魅力の創出を図るほか、入館者アンケート調査及び「非来館者調査」等を実施し、そのニーズや満足度を把握し、分析結果を展覧会事業等に反映させる。

その他各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

##### (東京国立近代美術館本館)

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約130年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「新収蔵&特別公開 | ピエール・ボナール《プロヴァンス風景》」等を開催する。また、開館70周年を機会に美術館の歩みを振り返るコーナーを新設する。加えて、国際化の中でアイデンティティを模索する日本の近代美術の歩みをわかりやすく紹介しながら、その流れの中に、特定の年代に焦点を絞った小企画を新たに組み込む。この小企画によって、展示替え毎に明快な変化をつけていくことで、いつ来ても、何度来ても魅力的な展示構成を実現する。以上の取り組みを通じ、所蔵作品展の次期10年間の指針を作ることを目指す。

企画展では、明治・大正・昭和の時代の変化を見つめながら、市井の人々の日常の記憶を繊細に紡ぎ出した風俗画家の全貌を辿る「没後50年 鏑木清方展」、20世紀の現代美術の展開に大きな影響を与えたドイツを代表する芸術家の60年にわたる画業を辿る「ゲル

ハルト・リヒター展」、絵画、彫刻、インスタレーション、デザイン、映像、絵本、音楽、エッセイなどあらゆる表現方法を手掛け、1980年代のデビュー以来トップランナーであり続けている日本の現代美術家の仕事を総覧する「大竹伸朗展」、重要文化財をできるだけ集め、日本の近代美術の歴史に新たな角度から光を当てる「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」を開催する。

#### (国立工芸館)

石川・金沢に移転して3年目を迎える令和4年度も、所蔵作品展の充実を図ることでさらに国立工芸館の特色を打ち出す。夏季には竹橋時代から継続して開催している子ども向け展覧会を大人と子どもが共に作品を鑑賞しながら楽しめるプログラムとしてアップグレードした「こどもとおとなの自由研究 工芸の○△□×展 (仮称)」を開催する。また、秋季には、「ジャンルレス工芸展 (仮称)」と題し、美術の各分野や地域といったジャンルにとらわれない作品を紹介、新たな作家の表現や鑑賞者の見方などを提示する。冬季には、国立工芸館の所蔵作品の幅広さを示すために、これまでまとめて紹介する機会の少なかった海外作家による作品を中心に展示する「工芸館と旅する世界展—外国の工芸とデザインを中心に— (仮称)」を開催する。さらに、移転により移築した石川県出身の重要無形文化財保持者 (蒔絵)・松田権六の工房コーナー「松田権六の仕事場」において、作家ゆかりの制作道具や関連資料を展示する。

企画展では、日本工芸会陶芸部会50周年を記念した現代陶芸の展覧会、「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展」を開催する。陶芸部会の活動を振り返るとともに、これからの「伝統」をその技術と表現でどのように生み出すのか検証する。また、これまで工芸とはあまり関連をもたずにきたポップカルチャーを題材とする工芸制作を取り上げ、日本的な工芸の造形思考に基づく優品を世界に向けて発信する展覧会を開催する。

また、地域連携の一環として、金沢 21 世紀美術館との共催により、金沢 21 世紀美術館において相互の所蔵作品を活用した展覧会を実施する。

#### (京都国立近代美術館)

所蔵作品展では、各ジャンルとも企画展と連動したテーマを積極的に採用しつつ、様々な特集展示を交えながら、年間5回の総展示替えによって幅広いコレクションを紹介する。また、「エデュケーショナル・スタディズ03」として、文化庁支援事業の「感覚をひらく—新たな芸術鑑賞プログラム創造推進事業」と連動し、「河井寛次郎を手探る (仮)」と題した作品鑑賞における触覚性に注目した展示を行う。

企画展では、幕末から明治にかけて京都と大坂において盛んであった文化サロンでの交流を通して生み出された絵画や版本の世界を紹介する「サロン! 雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇」展を開催する。続いて、美人画の分野で上村松園と並び称される鏑木清方の京都国立近代美術館では初めてとなる回顧展を開催する。また、京都市内各所に設置されたアルミ合金を用いた抽象彫刻で知られる清水九兵衛の足跡を、陶芸家七代清水六兵衛としての仕事からの連関にも注目しながら紹介する初めての展覧会を開催する。さらに、ドイツ・ケルンにあるルートヴィヒ美術館が所蔵する優品を、それらを寄贈したコレクターたちと美術館の関わり、そこから紡ぎ出される20世紀美術の歴史に焦点を当てて紹介する展覧会を開催する。そのほか、日本画だけではなく演劇や映画の世界

でも活躍した甲斐荘楠音を採り上げる展覧会では、彼の越境性に注目し新たな甲斐荘像の提示を試みる。コレクション・ギャラリーを利用した企画展としては、国立映画アーカイブとの共催9回目となる「MONDO映画ポスターアートの最前線」展ではオルタナティブ・ポスターと呼ばれるアート系映画ポスターの最新の動向を紹介するほか、世界の工芸の動向を幅広く紹介する試みの一環として、19世紀から現在にいたるフィンランドの織物リュイユを紹介する展覧会を開催する。

#### (国立映画アーカイブ)

上映会では、長瀬記念ホール OZU にて、令和3年度に引き続き1990年代の日本映画を回顧する上映企画「1990年代日本映画一躍動する個の時代」を開催する。また、国立映画アーカイブの近年の映画収集や復元の成果を披露する「発掘された映画たち2022」を4年ぶりに開催する。2022年に創立90周年を迎える東宝株式会社が日本映画に果たした貢献を振り返る企画として、「東宝創立90周年記念特集（仮称）」を、2期にわたって開催する。

小ホールでは、令和3年度に開始した、当館所蔵作品を臨機応変にプログラミングする上映シリーズ「NFAJコレクション」を「NFAJコレクション2022春」として引き続き開催し、8月以降は、通常長瀬記念ホール OZU で行っていた上映企画を開催する。2022年に生誕120年を迎える名匠・山本嘉次郎監督の足跡をたどる「生誕120年 映画監督 山本嘉次郎」、弁士の説明や生演奏を付けて無声映画を上映する企画「サイレントシネマ・デイズ2022」のほか、日本映画において女性映画人が歩んだ道のりを戦前から現代まで回顧する大規模な上映企画「日本映画と女性（仮称）」を実施する。

共催企画上映では、「EUフィルムデイズ2022」や「第44回びあフィルムフェスティバル」のほか、東京国際映画祭との共催で現代日本映画の名作を主に外国人観客に向けて紹介する「TOKYOクラシックス（仮称）」、アメリカのアカデミー・フィルム・アーカイブとの共催（予定）で、アカデミー賞受賞作など同アーカイブ所蔵作品を中心にアメリカ映画の古典などを紹介する「アカデミー・フィルム・アーカイブの至宝（仮称）」を開催する。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」を実施する。また、企画展として日本映画史を映画館と観客の視点から見る「日本の映画館（仮称）」、シナリオ作家として巨匠黒澤明の足跡をたどる「脚本家 黒澤明（仮称）」、映画ジャンルの系譜をポスターでたどるシリーズ企画の第4弾として各国の恐怖映画を取り上げる「ポスターでみる映画史 Part 4 恐怖映画の世界（仮称）」を開催する。

#### (国立西洋美術館)

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示を通じて、中世から20世紀半ばまでの西洋美術の流れを体系的に鑑賞できる機会を提供するとともに、作品科学調査をはじめ、研究員の調査研究の成果を取り入れた特集展示も積極的に行う。

また、小企画展としては、「新収蔵版画コレクション展」、教育普及プログラムと連動した「西洋版画を視る：エッチング 線を極める | 線を越える」（仮称）、「版画で「観る」演劇：フランス・ロマン主義が描いたシェイクスピアとゲーテ」（仮称）のほか、寄託を

受けたル・コルビュジエの絵画・素描による「調和にむかって：ル・コルビュジエ芸術の第二次マシン・エイジ——大成建設コレクション より」を開催する。

企画展では、フォルクヴァング美術館との共同企画によるリニューアルオープン記念展として「自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」を開催し、近代の芸術表現を通じて自然と人の関係性をたどり直す。さらに「ベルクグリューン・コレクション展」（仮称）では、ドイツの美術商の個人コレクションに由来するモダンアートを展覧し、『憧憬の地』ブルターニュ（仮称）では、ゴーガン作品を中心にブルターニュ地方と関わりの深い西洋・日本の絵画等を紹介する。

#### （国立国際美術館）

所蔵作品展では、企画展に合わせ3期に分けて展示を開催する。1期、2期においては、近年の収蔵作品を中心に紹介し、3期ではコンセプチュアル・アートを代表するメル・ボックナーの新収蔵品を紹介する。

企画展では、1954年に兵庫で結成され、50年代から70年代にかけて日本の前衛美術を牽引してきた具体美術協会（具体）の活動拠点であった大阪・中之島で開催される初の大規模な展覧会を、大阪中之島美術館と共同開催する「すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合」、世界有数のコレクターとして知られるハインツ・ベルクグリューンが収集した個性的なコレクションからピカソ、クレー、マティス、ジャコメッティ他の粒選りの作品約95点によりモダンアートの展開と達成を示す「ベルクグリューン・コレクション展」（仮称）を開催する。

#### （国立新美術館）

企画展では、令和3年度から引き続き「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」を開催し、ルネサンスから19世紀までの流れを同館ヨーロッパ絵画部門の主要作品によって紹介する。イギリスの現代美術家ダミアン・ハーストの国内初の大規模個展となる「ダミアン・ハースト 桜」では、最新の絵画作品を展覧する。「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション」では、ルートヴィヒ夫妻をはじめとするコレクターたちに焦点を当てつつ、ドイツ表現主義から現代に至るまでの代表作を紹介する。「ワニがまわる タムラサトル」では、子どもから大人まで幅広い層が気軽に現代アートに触れられるよう、現代美術家タムラサトルによるインスタレーションを展開する。「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」は、「もの派」を代表する美術家・李禹煥の軌跡をたどる大規模な回顧展として開催する。「ルーヴル美術館展」（仮称）では、ルネサンスから19世紀までの西洋美術における「愛」の表現の諸相を、同館の所蔵品によって紹介する。

また、現代美術の普及と作家支援を目的として、現代の多様な表現を紹介するインスタレーション作品等をパブリックスペースに展示する。さらに、日本近現代美術に関する所蔵資料から、1960・70年代の美術動向に関連する写真、書籍、手稿等を紹介する小展示を開催する。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、所蔵作品の長期貸与も視野に入れた相互貸出の推進に努めるとともに、6館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連

携について検討する。

- ①-3 国立西洋美術館においては世界文化遺産を構成する前庭の防水更新工事に併せて実施した復原について、印刷物、パネル、建築ツアー等で紹介するとともに、国立西洋美術館活用・公開方針検討委員会で世界遺産の「活用」と「公開」について、引き続き検討する。

- ② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るとともに全国の公私立美術館等の活動の充実と作品活用の促進に資するため、全国の公私立美術館等と連携して、国立美術館巡回展を以下のとおり実施する。

「令和4年度国立美術館巡回展 「国立国際美術館コレクション」」

(担当館：国立国際美術館)

(ア) 期間：令和4年4月2日(土)～5月29日(日)(51日間)

会場：広島県立美術館(広島県広島市)

(イ) 期間：令和4年6月11日(土)～8月21日(日)(72日間)

会場：大分県立美術館(大分県大分市)

- ②-2 (アート・コミュニケーションセンター(仮称))

従来の国立美術館巡回展、国立美術館合同企画展を再編・見直しし、国立美術館と全国の公私立美術館等との連携による新しいかたちの巡回展の実現に向けて、国立美術館各館とも協議の上その方針を確定する。

- ③ 公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる映画鑑賞事業を実施する。

ア 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁の協力のもと、教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による共催事業として、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：23プログラム92作品(1プログラム4作品)

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。なお、令和4年度は松竹株式会社の協力により、デジタル上映の導入にむけた試行として、1プログラムをデジタル上映素材(DCP)でも提供する。

期間：令和4年7月20日(水)～令和5年3月5日(日)

会場：全国100会場(予定)

イ 巡回上映等

(ア) 「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」

期間：令和4年4月～令和5年3月

会場：地方会場複数(予定)

- 共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター
- (イ)「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」(年4回)  
期間：令和4年5月、8月、11月、令和5年2月(予定)  
会場・共催：京都国立近代美術館
- (ウ)「アカデミー・フィルム・アーカイブの至宝(仮称)」  
期間：令和5年2月(予定)  
会場：(福岡会場)福岡市総合図書館  
(京都会場)京都文化博物館  
共催：アカデミー・フィルム・アーカイブ及び各会場
- (エ)「中之島映像劇場—国立映画アーカイブ所蔵作品による」  
期間：令和4年度中(予定)  
会場・共催：国立国際美術館

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

- ① 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。
- ア 令和4年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。
- イ 令和6年度に施設を使用する美術団体等を決定する。
- ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。
- ② 国立新美術館は、国際発信拠点として機能を充実する観点から必要な要素を整理するほか、予約等に関する情報収集を行い、その運用の見直しの検討に着手する。

## (3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

- ① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。
- 所蔵作品情報については、平成28年度年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報(来歴等)を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて公開し、国内外の研究促進に貢献する。
- また、国立国会図書館サーチ(NDL Search)、文化庁文化遺産オンライン及びジャパンサーチとの連携を継続する。
- このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

(アート・コミュニケーションセンター(仮称))

- ア 文化庁アートプラットフォーム事業の全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」を継承し、全国の美術館との連携のもと、国内美術館収蔵作品・作家情報の集約・国際発信を主導して進める。
- イ 国立美術館の公開情報資源(国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術

館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立美術館アートcommons等)を一元的に検索・閲覧できるシステムの公開準備を引き続き行う。

ウ 国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じた情報提供とそのため著作権調査等を継続する。

(東京国立近代美術館本館)

- ア 所蔵作品や展覧会、講演会、教育普及事業等の情報を適時ホームページに多言語で掲載し、情報の充実を図る。また、YouTubeを含む複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- イ 館ニュース「現代の眼」を電子ジャーナルとしてホームページ上で公開する。
- ウ 研究紀要27号(令和4年度刊行予定)の全文をホームページで公開する。
- エ 「東京国立近代美術館リポジトリ」を通して、ホームページ上で刊行物等を広く公開する。

(国立工芸館)

- ア 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに多言語で掲載し、情報の充実を図る。また、ツイッターとフェイスブックに加え、令和3年度に新たに開設したInstagramを活用し、美術館への来館を促進する。
- イ 展覧会情報をスムーズにメディアに提供するために、ホームページ上に写真貸出システムを導入し、さらなる広報力強化に努める。

(京都国立近代美術館)

- ア 利用者のニーズの多様化に対応し、端末の環境変化にあった情報提供に努める。
- イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。また、フェイスブックに加え、InstagramやYouTubeを活用し、積極的に情報を発信する。
- ウ コレクション・ギャラリーのテーマ展示に関する解説を多言語でホームページに掲載し、情報発信の充実を図る。
- エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容を充実させるとともに、ホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、Instagram及び公式youtubeチャンネルを活用し、積極的に情報発信を行う。
- イ 所蔵する記録映画・ニュース映画等の貴重な映像資源をオンラインでの視聴に供するための「国立映画アーカイブ・コレクションによる歴史的映像デジタルアーカイブ(仮称)」の構築を推進する。
- ウ ホームページ上の「NFAJデジタル展示室」の充実や、所蔵技術資料のデジタル化に取り組む。
- エ ホームページ開設前の過去の上映会、展覧会に関する企画情報及び広報物をホームページ上に集積し、情報発信の充実を図る。

オ ホームページ上に映画製作専門家養成講座やアーカイブセミナーなど過去に開催した教育普及事業の採録テキストを公開し、オンラインサービスで学べるコンテンツの充実化を図る。

(国立西洋美術館)

ア 美術館の基盤であるコレクション情報の調査・収集・整理に努め、専門家のニーズにも適う質の高い情報をオンラインで国際発信し、国内外の研究進展に貢献する。

イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号等を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。

ウ 広報の情報発信として、事業その他の活動状況を4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。

(国立国際美術館)

ア レジストラの管理の下、所蔵作品管理システムを活用して作品情報の整備と速やかなデータの公開を目指す。

イ 特にパフォーマンス等の現代美術作品のデータを適切に管理し、積極的に貸出などの活用をする。また、その調査研究や活用について先駆的な事例を蓄積し、国内外への情報発信を目指す。

ウ 歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、インターネットを通じて2か国語（日本語、英語）で公開する。

エ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。

オ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

カ 4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）の展覧会情報等をホームページ上で公開する。

(国立新美術館)

ア SNS（日本語、英語）を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。令和4年度にはホームページのリニューアルを実施し、情報発信の充実と利用者の利便性向上を目指す。

イ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を実施する。また、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。また、東京国立近代美術館アトライブラリーと国立新美術館アトライブラリーの在り方については「東京国立近代美術館・国立新美術館連携促進ワーキンググループ」における検討結果を踏まえつつ、利用者の利便性向上を図る視点か

らの見直しに着手する。

(アート・コミュニケーションセンター(仮称))

国立美術館各館図書室の活動を基礎としながら、日本のアートに関する国際的リサーチ・センター機能のあり方について検討を始める。

(東京国立近代美術館本館)

ア 本館アートライブラリにおいて近・現代美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ 美術図書館連絡会（ALC）への参加等、国内の美術図書館と連携する。

ウ 国立情報学研究所の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）を通して、展覧会カタログを中心とした美術資料に関する書誌情報を作成し、その流通に寄与する。

エ 図書館間相互利用サービスによる文献複写への対応を継続し、美術資料へのアクセス向上に努める。

オ 国内外の美術館・博物館・大学・研究機関等と行っている刊行物の寄贈交換事業を継続して実施する。

(国立工芸館)

国立工芸館アートライブラリにおいて近・現代工芸及び美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

(京都国立近代美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進める。

(国立映画アーカイブ)

ア 映画関連の図書資料を、購入や寄贈などを通じて積極的かつ継続的に収集し公開する。

イ 戦前期の映画雑誌など図書資料のデジタル閲覧システムの充実を図る。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を収集し、調査研究活動の基盤とする。電子リソースも積極的に取り入れてリモートアクセスへの対応を進め、研究資料センターを通じて外部利用者にも供する。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、美術図書館連絡会（ALC）や「アート・ディスカバリー・グループ・カタログ」への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 松方コレクション及び林忠正資料等を中心に研究資源の整備・公開を引き続き進める。

(国立国際美術館)

現代美術に関する資料や情報を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。また、情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続して実施する。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalog プロジェクト）を引き続き実施するとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実に努め、展覧会情報と所有する美術情報との連携を進める。また、「アートコモンズ」の収録展覧会情報を広く活用するために文化情報等を横断的に検索できる、国立国会図書館が実施する「ジャパンサーチ」への連携を継続的に実施する。

(4) 教育普及活動の充実

- ① 年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。なお、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の状況に対応しつつ、感染防止策に配慮した教育普及活動を実施する。

(アート・コミュニケーションセンター (仮称))

国内外の幅広い人々を対象とした、所蔵作品や美術資料等の情報を活用したラーニング事業等の開発に向けて、センター内各グループや各館教育普及室、大学や企業と連携して検討し、研究に着手する。

国内外の美術館のラーニング実践を情報収集し、効果的な発信・共有の場を検討する。

(東京国立近代美術館本館)

展示室での活動ができない場合でも、オンラインを利用したプログラムを継続することにより、幅広い層に対応した教育普及活動を展開する。具体的には、Zoom（オンライン会議システム）を利用して、所蔵作品の高精細画像を共有し、本館ガイドスタッフ（解説ボランティア）が対話鑑賞を進める「オンライン所蔵品ガイド」の開催や、家族向けプログラム「おやこでトーク オンライン」の開催、「キュレータートーク」等のYouTube 配信などである。

また、小・中学校、高等学校へは、来館した団体には感染防止策に配慮した講堂でのガイダンス等を実施するほか、所蔵作品による授業用ウェブサイト「鑑賞素材 BOX」と Zoom を併用することにより、遠隔地の学校や、特別な支援を必要とする児童生徒への発達段階に応じた鑑賞教育を持続させる。

外国人来館者向けの英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let' s Talk Art」は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限緩和の状況に応じて実施する。状況によっては、Zoom を利用したオンラインプログラム「Let' s Talk Art! Online」を実施し、海外

からの鑑賞機会を提供する。ビジネスパーソン向けには、引き続き鑑賞ワークショップ等のプログラムを提供する。

- ア 企画展に関する講演会やギャラリートークの実施（YouTube 等による動画配信を含む）。
- イ 所蔵作品展に関するキュレータートーク等による作品紹介の実施（YouTube 等による動画配信を含む）。
- ウ ガイドスタッフによる対話鑑賞プログラム「所蔵品ガイド」の実施（Zoom を利用した「オンライン所蔵品ガイド」を含む）。
- エ 親子向け鑑賞プログラム「おやこでトーク」の実施（Zoom を利用した「おやこでトーク オンライン」を含む）。
- オ 外国人来館者向けの英語鑑賞プログラム「Let' s Talk Art!」の実施（Zoom を利用した「Let' s Talk Art! Online」を含む）。
- カ ビジネスパーソン向け鑑賞プログラム等の実施（オンライン対応含む）。
- キ 児童・生徒・学生へのスクール・プログラム（Zoom 等による遠隔授業を含む）や、「先生のための鑑賞日」「美術館活用講座」の実施（オンライン対応含む）。
- ク 小・中学生向けの「セルフガイド」、親子向けの「セルフガイド・プチ」及び「英語版セルフガイド・プチ」の会場配布並びに「デジタル版セルフガイド」の電子配信。

#### （国立工芸館）

- ア 展覧会ごとに講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施又はオンラインコンテンツの配信
- イ ガイドスタッフ等による「工芸トークオンライン」（日本語・英語）の実施
- ウ 一般観覧者向けの鑑賞補助教材の配布
- エ 児童を対象とするセルフガイド等の配布、またワークショップ等の実施又はオンラインでの配信
- オ 2D及び3D鑑賞システムの構築と公開
- カ 石川県ほか近隣の小中学校等との協働による工芸鑑賞教育研究会の実施
- キ 教員のための鑑賞日の実施

#### （京都国立近代美術館）

幅広い層の人々への美術鑑賞・美術館での体験に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層、家族連れをはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

- ア 小・中・高等学校、特別支援学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- イ 大学教員等による美術館を利用した研究会・プログラムに対する協力・支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施（インスタグラムやYouTube 等での動画配信を含む。）
- オ 京都市教育委員会、京都府教育委員会等との共催による教員向けの鑑賞教育研究会

の共同開催

カ 誰もが美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルなプログラムの継続的な実施

(国立映画アーカイブ)

映画鑑賞や解説を通して幅広い層の人々への映画及び映画保存への関心を高める事業を館内外で展開するとともに、様々な観客層に合わせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。

ア 館外共催上映等

(ア) 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」の実施と事業内でのワークショップの推進

(イ) 教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による巡回上映事業「優秀映画鑑賞推進事業」を実施し、現在では希少な 35mm フィルム上映とスクリーンでの鑑賞体験を通して映画保存や映画文化についての普及を行う。[再掲]

イ 館内開催イベント等

(ア) 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2022 年の夏休み★(仮称)」の実施

(イ) ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)に関連した上映・講演会等を開催するなど、上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。

(ウ) 駐日スロバキア共和国大使館等との共催で、ヴィシエグラード・グループ各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を、各国文化センターの解説付きで提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施

(エ) 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学、並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

(オ) 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施

(カ) 新たに復元した映画の上映と講演会の実施

(キ) 国立映画アーカイブ特別施設見学制度を活用した映画映像、映画保存を学ぶ人々への学習機会の提供

(国立西洋美術館)

より多くの人に美術・美術館に親しんでもらう機会を創出し、各対象に応じた学びを提供するため、所蔵作品展と企画展の双方に関連した多様なプログラムを実施する。一般向けのプログラムを充実させるとともに、学校、家族、障害のある人等多様な対象に向けたプログラムを行い、社会的包摂を視野に入れた活動に努める。

ア 学校団体に向け、少人数のグループで対話をしながら所蔵作品を見る「スクール・ギャラリートーク」、美術館での仕事に関して児童・生徒からの質問に答える職場訪問、講堂にて常設展、企画展の見どころを伝えるオリエンテーション、鑑賞ガイドの配布の実施

イ 来館者に向け、ボランティア・スタッフにより作品を紹介する「美術トーク」及び

- 本館を巡りながら建築の見どころを伝える「建築ツアー」の実施
- ウ 所蔵作品を活用したファミリープログラム「どようびじゅつ」の実施
- エ 小企画展や所蔵作品に関連した各種プログラムの実施（講演会、熟覧プログラム、ワークショップなど）
- オ 「美術館でクリスマス」（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施
- カ 企画展に関連した講演会とスライドトークの実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム」（解説及び無料観覧）の実施
- ク 障害のある人を対象とするプログラムの実施

（国立国際美術館）

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に応じた学びを得られるようなプログラムを実施する。

状況に応じ、対面とオンラインを併用し、所蔵作品展、企画展に合わせた講演、解説、アーティスト・トークを実施し、来館者が展覧会と接続できる機会を提供するとともに、乳幼児を育児中の保護者、幼児、障害者など、何らかの事情で美術館にアクセスすることが困難な人を対象として、美術、作品、美術館に興味関心を寄せられるプログラムを展開する。

そのほか、各校種・研究団体と連携することにより、幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校とのより一層の結びつきを深め、鑑賞教育の充実を促進する。

- ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 所蔵作品展に関連したギャラリートークの実施
- ウ 小学1年生～4年生を対象とした鑑賞プログラム「こどもびじゅつあー」の実施
- エ 小学5年生～中学3年生を対象とした鑑賞プログラム「びじゅつあー」の実施
- オ 未就学児とその家族向けプログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー ～絵本もいっしょに～」の実施
- カ 誰でも参加できる対話による鑑賞会「だれでもびじゅつあー」の実施
- キ ファミリー・プログラム「びじゅつあーすぺしゃる」の実施
- ク 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施
- ケ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の配布
- コ 鑑賞補助教材「アクティビティ・ブック」の作成
- サ 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」の配布
- シ 館内探検マップ（仮称）の制作
- ス 幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へスクール・プログラム（オリエンテーション、ギャラリートーク、キャリア育成プログラムなど）の実施
- セ 幼稚園及び保育園、小・中・高等学校並びに特別支援学校の教職員対象美術館活用及び鑑賞プログラムの実施
- ソ 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- タ 大阪府教育センター等との連携による研修会の実施
- チ 誰もが鑑賞をはじめとする美術館のアクティビティを楽しめるユニバーサルプロ

## グラムの実施

### (国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。また、内容に応じて、オンラインを利用したプログラムも併せて提供する。

ア 展覧会等にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等を実施する。

イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施

ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施

エ 鑑賞ガイドの作成及び配布

オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

カ 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催

キ 来場者がいつでも美術館の建築について親しみ、美術館の機能について知ることができる、国立新美術館建築ガイドアプリ「CONIC」の配信（日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語対応）と活用。

ク 美術館近接地である港区、渋谷区及び千代田区の地域貢献活動として、休館日学校招待デー「かようびじゅつかん」の開催

ケ アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2022」を開催するとともに、「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2022」に特別協力する。また、日本アニメーション協会と連携してワークショップ等を開催する。そのほか、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

- ② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実及び企業や地域等との連携によるラーニングコンテンツを活用した事業の開発等を図る。

### (アート・コミュニケーションセンター (仮称) )

企業や大学等と連携して、SDGs (持続可能な開発目標) の実現と国内美術館の教育普及に係る取組の充実に向けたラーニングコンテンツを検討する。

### (東京国立近代美術館本館)

ア ガイドスタッフ (解説ボランティア) による、所蔵作品展の所蔵品ガイドや、オンライン対話鑑賞を実施する。

イ ガイドスタッフによる、児童・生徒・学生の受入れ (スクール・プログラム)、ファミリープログラムの開催等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 英語ファシリテータによる、「Let's Talk Art!」や、「Let's Talk Art! Online」を実施する。

エ 有償解説スタッフによるビジネスパーソン向けプログラム等、有料プログラムを実施する。

オ ガイドスタッフ、英語ファシリテータ、有償解説スタッフのスキル維持のため必要に応じてフォローアップ研修を実施する。

(国立工芸館)

ア ガイドスタッフ（解説ボランティア）による日本語及び英語ガイドをオンラインにて実施する。

イ ボランティアを活用したサービスガイドに係る調査を行う。

(京都国立近代美術館)

京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。

イ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。

(国立国際美術館)

学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

エ 協賛企業のボランティアと連携した教育プログラムの開発・実施。

③ 国立映画アーカイブにおいては、映画フィルム等の所蔵作品の活用を図った教育普及事業の充実を図る

ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施 [再掲]

イ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施 [再掲]

ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2022 年の夏休み★（仮称）」の実施 [再掲]

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の

美術館活動の推進を図るため、別表2のとおり各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表2のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

#### (東京国立近代美術館)

展覧会に伴う図録・小冊子、研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』（電子ジャーナル）及び『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

#### (本館)

ア 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」及び「英語セルフガイド・プチ」を発行する。〔再掲〕

イ 「デジタル版セルフガイド」を所蔵作品展にて配信する。〔再掲〕

#### (国立工芸館)

ア 一般観覧者向けの鑑賞補助教材を配布する。〔再掲〕

イ 児童を対象とするセルフガイド等を配布する。〔再掲〕

ウ 2D及び3D鑑賞システムの内容充実を図る。〔再掲〕

#### (京都国立近代美術館)

ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。

イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の解説をホームページ上に公開する。

ウ 約2,000点におよぶ京都国立近代美術館の写真コレクションを紹介する新たな所蔵作品集を、一般出版社の協力を得て刊行を目指し、作品の再調査に着手し、その成果の作品データベースへの即時反映に努める。

#### (国立映画アーカイブ)

ア 上映会や展覧会に伴い『NFAJ ニューズレター』等の刊行物を発行する。

イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。

ウ セミナーの再録を、ホームページ上に公開する。

#### (国立西洋美術館)

ア 『国立西洋美術館研究紀要』、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。

イ 企画展ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」、学校団体向

けに常設展ガイドを発行する。

(国立国際美術館)

ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

イ 鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」、「アクティヴィティ・ブック」を発行する。〔再掲〕

ウ 出版社と協働し、新たに『現代美術スタディーズ(仮称)』の刊行に向けて準備を進める。

(国立新美術館)

ア 展覧会に伴う図録、『国立新美術館活動報告』、『国立新美術館研究紀要』等の刊行物を発行する。

イ 鑑賞ガイドを発行する。

## (6) 快適な観覧環境等の提供

① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。

また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化(日本語、英語、中国語、韓国語)を実施する。

イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化(日本語、英語、中国語、韓国語)を実施する。

ウ 館内において無料Wi-Fiを提供する。

(本部)

ア 国外の主要メディアに各館を紹介するプレスリリースを配信するなど、外国人観光客の来館促進につながる広報を行う。

イ 「非来館者調査」を実施し、結果を各館の来館者サービス充実等に活用する。

ウ 一般向けの国立美術館の紹介パンフレット(日本語、英語、中国語、韓国語)を制作し、各館、観光案内所及び宿泊施設等で配布することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。

エ 法人概要(日本語、英語)を作成し、ホームページで公開する。

(東京国立近代美術館本館)

ア 「美術館の春まつり」「MOMATサマーフェス」など、歳時にあわせた全館イベントを企画・実施する。その際は地域と連携するなどし、館の魅力を広げるとともに来館者

層の拡大を図る。

- イ 夏季期間、夜間開館周知のための広報施策を都内の美術館・博物館等と連携して実施する。
- ウ 来館者サービス充実に向け、電子アンケート（日本語、英語）を活用する。
- エ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。
- オ 一般向けの館紹介パンフレット（日本語、英語）の配布、ホームページの充実などにより、館の認知度の向上及び集客に努める。
- カ 館概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。
- キ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「英語版セルフガイド・プチ」を配布する。〔再掲〕
- ク 「デジタル版セルフガイド」を配信する。〔再掲〕
- ケ デジタルサイネージを活用し、館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- コ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。
- サ 作品解説アプリを用いて展示解説情報（日本語、英語、中国語、韓国語）を提供する。
- シ 聴覚障害者向けに、映像作品に手話とバリアフリー字幕を付加する取組を行う。

#### （国立工芸館）

- ア 各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した鑑賞補助教材を日本語及び英語で作成し、来館者が興味深く鑑賞でき、学校関係者が教材としても活用できるよう情報提供に努める。
- イ 工芸の専門的知識を持たない児童や外国人を対象とするセルフガイド等を日本語及び英語で作成し、工芸鑑賞の普及に努める。
- ウ 作家、作品、部屋解説などを多言語（日本語、英語、中国語、韓国語）によるテキストと音声ガイドで提供する。
- エ 2D及び3D鑑賞システムの充実を図り、幅広い来館者層のニーズに応える情報提供を行う。〔再掲〕
- オ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- カ デジタルサイネージを活用し、館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- キ 来館者サービス充実に向け、電子アンケート（日本語、英語）を活用する。

#### （京都国立近代美術館）

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。
- オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）

を図る。

カ 月一回程度、夜間開館周知のための広報施策を展示や建築と関連した他の芸術分野のイベント等の機会に行い、新たな層の誘客を図る。

#### (国立映画アーカイブ)

ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成し、ホームページ上に掲載する。

イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上に掲載する。

ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。

エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上にも提示する。

オ 正面入口両サイドに上映会・展覧会等の情報をデジタルサイネージで提示する。

#### (国立西洋美術館)

ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。

ウ 国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、同時に世界遺産に登録された7か国17資産の建物等を紹介するパンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

オ 上野文化の杜実行委員会と協力し、上野文化の杜の専用サイト上で国立西洋美術館についての情報を発信する。

#### (国立国際美術館)

ア 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」（所蔵作品展作品鑑賞のためのワークシート）、「アクティビティ・ブック」（作品鑑賞のためのアクティビティを提案している冊子）を配布する。

イ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

ウ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

#### (国立新美術館)

ア 館フロアガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。

ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。

エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。

オ 通訳機を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。

カ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

キ QRコードを用いて、展覧会場の解説の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）情報を提供する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

（国立美術館全体）

ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化を実施する。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。

イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。

ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。

エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。

オ 「国際博物館の日」を記念して、展覧会の実施形態に応じ観覧料の無料化や割引を実施する。

カ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立国際美術館は日本私立学校振興・共済事業団と提携し、学生証等の提示による所蔵作品展の優待割引を実施する。

キ 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「東京トラベルガイド」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。

ク 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2022」に参加し、観覧料の割引を実施する。

ケ 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2022」に参加し、観覧料の割引を実施する。

コ 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引又は無料化を実施する。

サ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び、国立西洋美術館では所蔵作品展チケット及び企画展チケットの、国立国際美術館では所蔵作品展チケットの、国立新美術館では企画展チケットのオンライン販売を実施する。

シ 東京国立近代美術館及び国立国際美術館では、賛助会員に対して、会員証提示による観覧料の割引や、ミュージアムショップでの割引等の来館者サービスを実施する。

ス 京都国立近代美術館及び国立国際美術館では、企画展及び所蔵作品展を観覧できる年間パスポートの販売促進に努める。

（東京国立近代美術館本館）

ア 所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進に努める。

イ 千代田区、東京メトロ、日本自動車連盟（JAF）、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う

う。

ウ 東京観光情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。

エ クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

オ 友の会の会員に対して、会員証提示による観覧料の割引等の来館者サービスを実施する。

#### （国立工芸館）

ア クレジットカード及び電子マネーによる観覧券の窓口販売を行う。

イ 石川県・金沢市が運営する近隣美術館との観覧料の相互割引を行う。

ウ 石川県が推進する「加賀百万石回遊ルート SAMURAI パスポート」に参加し、当該広報物による展覧会広報とともに割引による観覧料の低廉化を行う。

エ 石川県内の高等教育機関が参加する学パス（学生のまちパスポート）に参加し、新入生の所蔵作品展観覧料の無料化を実施する。

オ 石川県が実施する「いしかわ文化の日」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化を実施する。

カ 友の会の会員に対して、会員証提示による観覧料の割引等の来館者サービスを実施する。

#### （京都国立近代美術館）

ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。

イ 株式会社京阪カード、株式会社阪急阪神カード等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

ウ 京都国立博物館、京都府京都文化博物館、京都市京セラ美術館との観覧料の相互割引を実施する。

#### （国立映画アーカイブ）

ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。

イ 上映会鑑賞者の利便性向上と、新型コロナウイルス感染症予防策として前売指定席券を販売する。

ウ 外国人の鑑賞を促進するため、多言語による上映環境の整備に向けて検討を行う。

エ 視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー上映を実施する。

オ インターネット購入を含めた上映会観覧券購入のための新システムの導入について検討を行う。

カ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。

キ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

(国立西洋美術館)

クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。

(国立国際美術館)

ア クレジットカード及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

イ 「大阪周遊パス 2022」、大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。

イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。

ウ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。

エ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。

オ クレジットカード、電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。

カ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

ア 東京国立近代美術館本館では、レストランと連携し、展覧会に合わせたコラボレーションメニューを提供するなど、来館者サービスの向上を図る。ミュージアムショップでは、オリジナルグッズを企画販売する

イ 国立工芸館では、ミュージアムショップの販売活動を通じて「日本のものづくり」の魅力を国内外に発信することを目指し、管理・研究部門協働によって各地の工芸やデザインの優品を選び、商品解説や制作者紹介の充実にも努める。また、北陸地域の企業との連携によるオリジナルグッズを作成して販売する。さらに、展覧会に合わせたグッズを収集して販売し、利用者の関心を深める視点をショップからも発信する。

ウ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会に合わせた関連書籍やグッズをより充実させる。

エ 国立映画アーカイブでは、1階ロビーにおいて NFAJ ニュースレター及び展覧会図録等を販売する。

オ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進し、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにふさわしいオリジナルグッズの開発、販売方法等を引き続き検討するとともに、オンラインショップの充実に

努める。

カ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。

キ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承

### (1) 作品の収集

①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで公開する。

(アート・コミュニケーションセンター (仮称) )

ナショナルコレクションにふさわしい国内現存作家の作品をはじめ、現代の美術の動向を示す作品の同時代収集を一層推進するために、法人全体の収集方針の策定に向けて、国立各館の収集活動の計画・調整にあたる。

(東京国立近代美術館本館)

近代日本美術の体系的コレクションの構築を図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

(国立工芸館)

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充

イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集

ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 近・現代美術史の将来的検証に資する作品・資料を収集する。

イ 絵画、彫刻、版画、素描類、工芸(陶芸・漆芸・金工・染織など)・デザイン、写真

など、芸術の動向に係る作品・資料をジャンルの区別なく収集するだけでなく、複数のジャンルを横断する作品も積極的に収集対象とする。

ウ 日本の作品については、全国の動向に目配りしつつも、京都を基盤とし、関西さらには西日本での芸術活動に重点を置き、所蔵作品の充実を図る。

エ 国外の作品については、日本の芸術と世界の関係に鑑み、日本へ／からの影響関係が認められる作品の収集に重点を置く。特にダダイスムのような、芸術におけるパラダイムシフトに大きな役割を果たした動向の作品に注目する。

#### (国立西洋美術館)

ア おもに 15～20 世紀の西洋美術作品の収集に努める。

イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランス等を中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。

ウ 国内外に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

#### (国立国際美術館)

ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。

イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては国立美術館としての役割を踏まえ法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

## (2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応として、外部倉庫の活用、関係機関等との協議、既存の収蔵庫等保管施設の改修、額縁及び作品の整理による保管スペースの確保等を進め、保管環境の改善を行う。

また、平成 31 年 3 月に策定した「収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化対応に係る方針」に基づき、ナショナルセンターとして担う役割にふさわしい機能を有する新たな収蔵施設の設置に向けた調査及び検討を進める。

国立工芸館では、狭隘・老朽化のため以前より外部倉庫（東京）に保管を委託していた作品およびその後新たに収蔵した工芸作品の保管のため、令和 5 年度から金沢市内の外部倉庫の活用を目指し調査及び検討を進める。

## (3) 所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館では、作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部

の専門家との定常的な連携を進める。特に、近年新たに収集した作品で修復が必要なものや、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 国立工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品の現状保存修復を引き続き行う。また、過去の展覧会に出品されたポスターのクリーニング等を継続して行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示に活用できていない美術作品の保存修復処置を優先的に行う。特に、経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行う。近年収集したコレクションについても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。保存修復室と保存科学室で作品の科学調査を進め、作品の制作技術や材料についての調査研究にも努める。

オ 国立国際美術館では、展示・貸出予定のある作品、新収集作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。特に、現代美術に特有の修理・修復の課題（新しい素材や映像の取扱い）に積極的に取り組み、適切な処置に努める。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい所蔵資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

#### （４）所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### （１）国内外の美術館等との連携・協力等

① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。

ア 東京国立近代美術館では、「没後50年 鏑木清方展」、「ゲルハルト・リヒター展」、「大竹伸朗展」「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」に際し、国内外の研究者やアーティストを招へいして、シンポジウムや講演会を開催する。

イ 京都国立近代美術館では、「サロン！雅と俗一京の大家と知られざる大坂画壇」展開催に併せて、国内外の研究者を招いてのシンポジウムならびに講演会を開催する。また、「MONDO映画ポスターアートの最前線」、「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」、「演じる人：甲斐荘楠音（仮称）」の各展覧会においては国内の研究者・アーティストを招へいし、「ルートヴィヒ美術館展」では国外の専門家を招き講演会を開催する。

ウ 国立西洋美術館では、「自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」、「ベルクグリューン・コレクション展」（仮称）、「『憧憬の地』ブルターニュ」（仮称）の開催に際し、国内外の研究者を招へいした講演会等を開催する。

エ 国立国際美術館では、「すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合」、「ベルクグリューン・コレクション展」（仮称）に際し、研究者を招へいし、講演会を開催する。また、国立美術館巡回展の各会場で国立国際美術館担当研究員と各会場担当研究員の連

携による講演会を開催する。

森美術館（東京）での「六本木クロッシング2022展（仮称）」に際して企画協力し、当館研究員がゲスト・キュレーターとして企画参画する。

そのほか、国際的な専門家ネットワーク構築に取り組む文化庁事業「文化庁アートプラットフォーム事業」に参画する。

オ 国立新美術館では、「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」の開催にあわせ、国内外の研究者等を招聘したシンポジウムを開催するほか、「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション」、「ルーヴル美術館展」（仮称）で国外の研究者を招へいた講演会を行う。

② 展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 京都国立近代美術館では、将来的な関係構築を視野に入れ、国外美術館からの作品借用依頼に積極的に応えることとし、レンバハウス（ドイツ、ミュンヘン）で開催される「Gruppendynamik: Kollektive der Moderne（グループ・ダイナミック：近代の集合）」展に土田麦僊《朝顔》ほか日本画15点、油彩画1点、版画1点の計17点を貸与する。

イ 国立西洋美術館では、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング美術館との共同研究により、互いの所蔵品をもとにした展覧会を二部構成で開催する。フォルクヴァング美術館での前期展では両館それぞれの設立の基礎となったオストハウス・コレクションと松方コレクションを紹介し、国立西洋美術館での後期展では、自然との関係性をテーマとする「自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」を開催する。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和4年度の秋に延期し開催する展覧会「明治時代の日本美術（仮称）」（ロシア印象派美術館、モスクワ）に、油彩画・水彩画合計16点を貸与し、海外における日本美術研究に協力する。

ウ 国立西洋美術館及び国立国際美術館では、ベルクグリューン美術館（ドイツ、ベルリン）と共同で「ベルクグリューン・コレクション展」（仮称）を開催する。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

④ 「アート・コミュニケーションセンター（仮称）」において、文化庁アートプラットフォーム事業の全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」を継承し、全国の美術館との連携のもと、国内美術館収蔵作品・作家情報の集約・国際発信を主導して進める。また、国内美術館や美術関係者、海外の主要な美術館、作家等と連携し、美術を通じた国際交流を促進するために文化庁アートプラットフォーム事業継承に関する検討・準備を進める。

## （2）ナショナルセンターとしての人材育成

① すべての人々のための美術教育・参加促進の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校等の教員と学芸員等が、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの開催概要及び開催報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：令和4年8月1日(月)、8月2日(火)

会場：国立西洋美術館、国立新美術館

募集人員：60名

ウ 「アート・コミュニケーションセンター（仮称）」において、ビジネス研修等有料プログラムに対応できる有償ファシリテータを育成・運営する。また、高齢者や障害者に対応できるファシリテータ育成プログラムの研究・開発に着手する。

②-1 公立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館（国立工芸館を除く）においてインターンシップ制度を実施する。

イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立映画アーカイブにおいて、映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催

エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

オ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、展覧会等に関するガイダンスや美術館建築の機能を紹介する建築ツアー等を実施する。

### （3）国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら、映画・映像作品の収集・保管・修復・復元に積極的に取り組むとともに、国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）の正会員として、引き続き国際的な事業等に取り組む。また、「アート・コミュニケーションセンター（仮称）」の設置に伴い、国立映画アーカイブの情報発信や人材育成に係る機能の充実強化に取り組む。具体の事業については次のとおり。

① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失

の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも継続しながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 歴史資料として貴重な無声期の映画作品について、デジタル復元を実施する。

イ 日本映画監督協会の協力を得て実施した国立美術館のクラウドファンディング第3弾「磁気テープの映画遺産を救え！『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト」の成果を基に、国立映画アーカイブ初の磁気テープコレクションのデジタルファイル化を図る。

ウ 国立映画アーカイブが所蔵する歴史的映像等のデジタル化と配信への取り組みを継続し、サイトの充実を図る。

エ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

- ② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mmフィルム等大型映画、3D映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の元素材をもとに、オリジナルの再現を目指したワークフローにより実施する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。
- ③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、デジタル視聴用ファイルも含めたコレクションへのアクセス対応を実施する。
- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。〔再掲〕
- ⑤ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑥ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑦ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。

⑧ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ 所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。

⑨ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努めるとともに、競争入札及び共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

### 2 組織体制の見直し

独立行政法人の組織ガバナンス強化の観点から、本部体制の強化に努めるとともに、独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上を実現するため、渉外、広報機能の強化等、ICT への対応の強化等、組織・体制の強化に努める。

### 3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

### 4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレットペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗剤、脱臭器具の賃貸借
- オ 電気
- カ 電子複写機賃貸借及び保守
- キ 古紙売買

### 5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

### 6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークを基盤として、バックアップ・インフラの増強に努めつつ、クラウド・サービス（外部情報サービス）を組み合わせることで、多様化する業務形態への対応と情報セキュリティの実現を両立できるように、仮想化サーバーの利用促進、外部

から館内インフラへの安全なアクセスの実現といった情報通信技術を活用した業務の効率化を進める。それとともに、職員への情報セキュリティ教育を継続的に実施し、運用面からの安全性の向上に努める。

## 7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、また、少額随契についてはオープンカウンター方式の導入を推進するなど、予算の効率的な執行に努める。

## Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

### 1 自己収入の確保

自己収入については、「新しい生活様式」を踏まえた事業展開に伴う収益の獲得や施設貸出収入、特別観覧収入、会費収入等の増加に向けた取組を推進し、自己収入の確保に取り組む。

また、外部資金については、寄附金やクラウドファンディングを活用した資金のほか、展覧会等の企画実施に向けて、企業等からの支援（協賛金や企業の事業活動と関連した支援等）の獲得のため、制度等の充実を図る。

### 2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

### 3 予算（年度計画の予算）

別紙1のとおり。

### 4 収支計画

別紙2のとおり。

### 5 資金計画

別紙3のとおり。

## Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

### 1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 業務運営全般について、独立行政法人全体として一貫した方針の下での運営を図るとともに、理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全

性の向上を図るとともに、コンピュータウイルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

- (3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容等を踏まえ、より望ましい運営方法について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

## 2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

令和4年度は、令和3年度補正予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

- ア 京都国立近代美術館外壁、屋上等雨漏れ対策工事
- イ 国立映画アーカイブ京橋本館上映ホール特定天井改修他工事
- ウ 国立映画アーカイブ相模原分館上映ホール天井改修他工事
- エ 国立西洋美術館自動火災報知設備更新工事
- オ 国立国際美術館雨漏り修繕工事
- カ 国立国際美術館B3階展示室空調設備更新
- キ 国立新美術館空調設備蒸気配管更新等工事

- (2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

## 3 人事に関する計画

### (1) 方針

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。
  - ア 新規採用者研修
  - イ ハラスメント防止に関する研修
  - ウ メンタルヘルスケアに関連する研修
  - エ 情報セキュリティ研修
  - オ コンプライアンス研修
- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。
- ③ 専門人材を含め多様な人材の確保と育成に努める。
- ④ 職員兼業規則を見直し、兼業の許可基準の緩和や申請手続きの簡素化を図る。

## (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及び特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

## 4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

また、今中期目標期間の前期までに生じた剰余金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、中期計画に定める使途に係る経費等に充当する。

## 5 その他

(1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

(2) 日本美術及び国内美術館の振興と我が国の美術における国際拠点化を図るとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の実現や文化観光振興等に寄与するため、「アート・コミュニケーションセンター(仮称)」の設置に向けた準備を進めるとともに、国立美術館の業務運営や活動全般について、望ましい対応の方向性を検討する。

別紙1  
 予算(年度計画の予算)

令和4年度予算

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
収 入					
運営費交付金	2,572	3,300	1,462	1,089	8,423
展示事業等収入	1,265	5	30	3	1,303
寄附金収入	0	0	0	650	650
施設整備費補助金	0	0	0	400	400
計	3,837	3,305	1,492	2,142	10,776
支 出					
運営事業費	3,837	3,305	1,492	1,092	9,726
人件費	555	129	162	417	1,263
一般管理費	0	0	0	675	675
事業部門経費	3,282	3,176	1,330	0	7,788
うち美術振興事業費	3,282	0	0	0	3,282
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	3,176	0	0	3,176
うちナショナルセンター事業費	0	0	1,330	0	1,330
寄附金事業費	0	0	0	650	650
施設整備費	0	0	0	400	400
計	3,837	3,305	1,492	2,142	10,776

別紙2  
収支計画

令和4年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
費用の部					
経常経費	3,925	850	1,306	1,745	7,826
人件費	514	119	149	393	1,175
賞与引当金見返	41	10	13	24	88
退職給付引当金見返	25	5	8	13	51
一般管理費	0	0	0	655	655
事業部門経費	3,260	701	1,116	0	5,077
うち美術振興事業費	3,260	0	0	0	3,260
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	701	0	0	701
うちナショナルセンター事業費	0	0	1,116	0	1,116
寄附金事業費	0	0	0	650	650
減価償却費	85	15	20	10	130
収益の部					
経常収益	3,925	850	1,306	1,745	7,826
運営費交付金収益	2,509	815	1,235	1,045	5,604
展示事業等の収入	1,265	5	30	3	1,303
寄附金収益	0	0	0	650	650
資産見返運営費交付金戻入	83	15	20	10	128
資産見返寄附金戻入	1	0	0	0	1
資産見返物品受贈額戻入	1	0	0	0	1
賞与引当金見返に係る収益	41	10	13	24	88
退職給付引当金見返に係る収益	25	5	8	13	51

別紙3  
資金計画

令和4年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
資金支出	3,837	3,305	1,492	2,142	10,776
業務活動による支出	3,815	3,301	1,453	1,722	10,291
投資活動による支出	22	4	39	420	485
資金収入	3,837	3,305	1,492	2,142	10,776
業務活動による収入	3,837	3,305	1,492	1,742	10,376
運営費交付金による収入	2,572	3,300	1,462	1,089	8,423
展示事業等による収入	1,265	5	30	3	1,303
寄附金収入	0	0	0	650	650
投資活動による収入	0	0	0	400	400
施設整備費補助金による収入	0	0	0	400	400

別表1 令和4年度 所蔵作品展・企画展 計画

(東京国立近代美術館本館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「美術館の春まつり」他特集及びコレク ションによる小企画を含む)	—	5回展示替え	265
企画展	①没後50年 鏑木清方展 ※1	毎日新聞社、NHK、NHKプロモー ション	3/18 (金) ～ 5/8 (日)	34
	②ゲルハルト・リヒター展	朝日新聞社	6/7 (火) ～ 10/2 (日)	102
	③大竹伸朗展	—	11/1 (火) ～ 2/5 (日)	80
	④東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密 ※2	毎日新聞社、日本経済新聞社	3/17 (金) ～ 5/14 (日)	14
	企画展 計			230

※1 通算の開催日数は47日間

※2 通算の開催日数は52日間

(国立工芸館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵作 品展	所蔵作品展	—	7/5 (火) ～ 9/4 (日) 9/16 (金) ～ 12/4 (日) 12/20 (火) ～ 2/26 (日)	178
企画展	①共催展 未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチ カラ展	公益財団法人日本工芸会 NHKエンタープライズ中部 北國新聞社	4/5 (火) ～ 6/19 (日)	66
	②ポケモン×工芸展—美とわざの大発見— (仮称)	株式会社ポケモン (予定) NHKエンタープライズ中部 (予 定) 読売新聞社 (予定)	3/21 (火) ～ 6/11 (日)	10
	企画展 計			76

※ 通算の開催日数は78日間

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	5回展示替え	295
企画展	①サロン！雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇 ※1	朝日新聞社	3/23 (水) ~ 5/8 (日)	34
	②MONDO映画ポスターアートの最前線	国立映画アーカイブ	5/19 (木) ~ 7/18 (月)	53
	③没後50年 鎗木清方展	毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿	5/27 (金) ~ 7/10 (日)	39
	④生誕100年 清水九兵衛／六兵衛	—	7/30 (土) ~ 9/25 (日)	50
	⑤ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション	ルートヴィヒ美術館、日本経済新聞社、BS-TBS、テレビ大阪、京都新聞	10/14 (金) ~ 1/22 (日)	82
	⑥リュウイユ—フィンランドのテキスタイル：トオマス・ソパネン・コレクション (仮称) ※2	—	1/31 (火) ~ 4/16 (日)	52
	⑦演じる人：甲斐荘楠音—絵画・演劇・映画・性を越境する個性 (仮称) ※3	日本経済新聞社	2/11 (土) ~ 4/9 (日)	42
企画展計				247

※1 通算の開催日数は42日間

※2 通算の開催日数は66日間

※3 通算の開催日数は50日間

※4 ②と⑥はコレクション・ギャラリーで開催する展覧会のため、企画展合計には含めない。

## (国立映画アーカイブ)

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
上映会	①1990年代日本映画特集 (仮称)	—	4/5 (火) ~ 5/1 (日)	24
	②発掘された映画たち2022	—	5/3 (火) ~ 5/22 (日)	18
	③NFAJコレクション 2022春	—	5/6 (金) ~ 5/22 (日)	9
	④EUフィルムデーズ2022	駐日欧州連合代表部及びEU加盟 国大使館・文化機関	5/28 (土) ~ 6/23 (水)	23
	⑤東宝創立90周年記念特集 (仮称)	—	6/24 (金) ~ 12/25 (日)	96
	⑥生誕120年 映画監督 山本嘉次郎	—	8/2 (火) ~ 8/28 (日)	22
	⑦サイレントシネマデイズ2022	—	8/30 (火) ~ 9/4 (日)	6
	⑧第44回びあフィルムフェスティバル	一般社団法人PFF、公益財団法人 川喜多記念映画文化財団、公益 財団法人ユニジャパン	9/10 (土) ~ 9/25 (日)	14
	⑨TOKYOクラシックス (仮称)	東京国際映画祭	10/25 (火) ~ 11/2 (水)	6
	⑩アカデミー・フィルム・アーカイブの至宝 (仮称)	アカデミー・フィルム・アーカ イブ	1/4 (水) ~ 2/5 (日)	29
	⑪日本映画と女性 (仮称)	—	2/7 (火) ~ 3/26 (日)	41
上映会 計				288
展覧会	①日本の映画館 (仮称)	—	4/12 (火) ~ 7/17 (日)	80
	②脚本家 黒澤明 (仮称)	—	8/2 (火) ~ 11/27 (日)	92
	③ポスターでみる映画史 Part 4 恐怖映画の 世界 (仮称)	—	1/17 (火) ~ 3/26 (日)	83
	展覧会 計			

## (国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	256
企画展	①国立西洋美術館リニューアルオープン記念 自然と人のダイアログ フリードリヒ、モ ネ、ゴッホからリヒターまで	読売新聞社、NHK、NHKプロモ ーション	6/4 (土) ~ 9/11 (日)	87
	②ベルクグリューン・コレクション展 (仮 称)	東京新聞、共同通信、TBS	10/8 (土) ~ 1/22 (日)	88
	③「憧憬の地」ブルターニュ (仮称)	TBS	3/18 (土) ~ 6/11 (日)	12
	企画展 計			187

## (国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	4回展示替え	189
企画展	①感覚の領域 今、「経験する」ということ ※1	—	2/8 (火) ~ 5/22 (日)	46
	②すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合	大阪中之島美術館、朝日新聞社	10/22 (土) ~ 1/9 (月)	63
	③ベルクグリューン・コレクション展 (仮 称) ※2	産経新聞社、毎日放送、共同通 信社	2/4 (土) ~ 5/21 (日)	48
	企画展 計			157

※1 通算の開催日数は91日間

※2 通算の開催日数は93日間

## (国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
企画展	①メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年 ※1	メトロポリタン美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京、TBS、BS-TBS	2/9 (水) ~ 5/30 (月)	53
	②ダミアン・ハースト 桜 ※2	カルティエ現代美術財団	3/2 (水) ~ 5/23 (月)	47
	③ワニがまわる タムラサトル	—	6/15 (水) ~ 7/18 (月)	30
	④ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡 —市民が創った珠玉のコレクション	ルートヴィヒ美術館、日本経済新聞社	6/29 (水) ~ 9/26 (月)	78
	⑤国立新美術館開館15周年記念 李禹煥	朝日新聞社	8/10 (水) ~ 11/7 (月)	78
	⑥ルーヴル美術館展 (仮称) ※3	ルーヴル美術館、日本テレビ	3/1 (水) ~ 6/12 (月)	27
	企画展 計			

※1 通算の開催日数は97日間

※2 通算の開催日数は73日間

※3 通算の開催日数は91日間

別表2 各館の令和4年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館本館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
鏑木清方と明治・大正・昭和の日本画	京都国立近代美術館	ア
ゲルハルト・リヒターと戦後の抽象絵画	豊田市美術館	ア
大竹伸朗と戦後文化	愛媛県美術館、富山県美術館	ア
日本近代美術史の形成と重要文化財制度	—	ア
ガウディと日本	サグラダファミリア教会	ア
棟方志功とメディア	青森県立美術館、富山県美術館	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
「MOMATコレクション 東京国立近代美術館の70年」	—	ア
コレクションの画像を用いた来館者用体験機器開発	株式会社DNPアートコミュニケーションズ	ア、イ
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂（写真家）	ア
速水御舟資料の調査研究	川越市立美術館、小林古径記念美術館他	ア
近代日本絵画における多層構造の活用に関する研究	小林俊介（山形大学）	ア
所蔵作品に関する画像・歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に）	—	ウ
独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと、国立国会図書館が運営するジャパンサーチ、文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	—	イ
オンライン会議システム等を利用した対話鑑賞や遠隔授業の開発	—	イ
企画展示やコレクションを活用してのワークショップ、鑑賞ガイド等の推進	—	イ
ビジネスパーソンなど特定の層に向けての鑑賞プログラムの推進	—	イ
外国人に向けての英語鑑賞プログラムの推進（オンラインを含む）	大高幸（アート・エドューケーター）	イ
1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究	科学研究費補助金、4年目	ア

日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究	科学研究費補助金、3年目	ア
写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に	科学研究費補助金、3年目	オ
塚田嘉信コレクションを起点にした初期映画史の調査	科学研究費補助金、3年目	ア
カラー映画フィルムのスペクトル分析に基づく忠実な色再現と褪色補正に関する基盤研究	科学研究費補助金、2年目	ア、エ

(国立工芸館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
現代の陶芸家と酒のうつわ	ジャパクラフトサケカンパニー	ア
日本の近・現代陶芸史と伝統工芸	パナソニック汐留美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館、MOA美術館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、兵庫陶芸美術館、日本工芸会	ア
国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか	ア、イ、ウ、オ
国立工芸館と金沢21世紀美術館のコレクションを活用した連携展覧会	金沢21世紀美術館	ア、オ
国立工芸館の環境整備	石川県、金沢市	ア、オ
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	—	イ
工芸制作における言語活動の推進について	石川県図工・美術教育研究会	イ
ポップカルチャーを題材とする伝統的工芸制作について	—	ア、イ
工芸作品の鑑賞における高精度デジタルデータの作成について	シャープ株式会社、株式会社DNPアートコミュニケーションズ	イ
日本の現代工芸の動向	—	ア
現代アートと現代工芸について	—	ア
石川の若手工芸家に関する調査研究	—	ア、ウ
美術館の宣伝・広報活動	石川県立美術館、石川県立歴史博物館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか	イ、ウ
ヨーロッパとアメリカの工芸・デザイン作品に関する調査研究	—	ア
版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に	—	ア、オ
1920-50年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究	—	ア、オ
松田権六資料の活用について	富山大学	ア、イ、ウ

明治時代の輸出工芸の研究	三の丸尚蔵館	ア、ウ
日本における近代デザインの受容と展開について	石川県立歴史博物館ほか	ア
美術館における作品情報のデータ化について	—	ア、オ

(京都国立近代美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品（工芸）に関する研究	—	ア
明治期の油彩・水彩画家たちと西洋からの来日画家たちに関する研究	府中市美術館、愛媛県美術館、長野県立美術館	ア
上野リチ・リックスに関する総合研究	三菱一号館美術館、オーストリア応用芸術博物館、京都市立芸術大学美術資料館	ア
京・大坂画壇の作品研究と文化ネットワークに関する考察	大英博物館、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター (KU-ORCAS)	ア
映画ポスター・アートの最新状況についての調査研究：オルタナティブ・ポスターを中心に	国立映画アーカイブ	ア、ウ
鏑木清方と明治・大正・昭和の日本画	東京国立近代美術館	ア
清水九兵衛（七代清水六兵衛）研究—陶芸と彫刻の相関について	千葉市美術館	ア、ウ
近現代美術館コレクションの形成とコレクターの役割について	国立新美術館、ルートヴィヒ美術館（ケルン）	ア、オ
フィンランドにおけるリュイユ織に関する研究	—	ア
甲斐荘楠音の絵画・映画・演劇：越境的個性に関する研究	東京ステーションギャラリー、国際日本文化研究センター、神戸大学、東映太秦映画村	ア、ウ
京都国立近代美術館と「現代美術の動向展」	—	ア、ウ
走泥社と前衛陶芸の展開	岡山県立美術館	ア、ウ
小林正和と1970年代以降のファイバーアートの展開について	岡山県立美術館、ギャラリー・ギャラリー	ア、ウ
倉俣史朗のデザインとその思想に関する研究	富山県立美術館、世田谷美術館、クラマタデザイン事務所	ア
1990年代以降の日本映画監督	国立映画アーカイブ	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会	イ
障害の有無に関わらず享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	国立民族学博物館、京都市立芸術大学、京都府立盲学校、京都大学総合博物館、大阪教育大学	イ、オ
美術館の教育普及活動	—	イ
20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究	科学研究費補助金、1年目	オ

## (国立映画アーカイブ)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
1990年代以降の日本映画監督	京都国立近代美術館	ア
1990年代の日本映画	—	ア
アメリカ映画の歴史	アカデミー・フィルム・アーカイブ	ア
映画館と観客からみた日本映画史	—	ア
映画監督山本嘉次郎の映画	—	ア
映画製作専門家のオーラルヒストリー	—	イ
映画フィルムのデジタル化と配信に係る調査	—	ア、ウ、エ
脚本家としての黒澤明	—	ア
子どもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
世界の恐怖映画とそのポスター表現	—	ア
東宝映画の歴史	—	ア
日本映画における女性の役割の歴史	—	ア
日本の映画検閲による切除対象映画	—	ア
発掘された映画	—	ア、エ
ヨーロッパ諸国の現代映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
映画の収集のための原版の所在並びに権利帰属等の情報収集と調査	映画製作会社等諸団体	ア
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—	ア、ウ、エ
映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	—	イ
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等	ア、ウ、エ
外国映画を中心とする無声映画	—	ア
現代日本映画	東京国際映画祭	ア
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAF会員、国内外の同種機関、現像所	ア
社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
日本の自主映画	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン	ア

(国立西洋美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
近代芸術における自然の表象	フォルクヴァング美術館 (エッセン)	ア
ドイツにおけるモダンアートの収集	ベルクグリューン美術館 (ベルリン)、国立国際美術館	ア
ブルターニュ地方と美術	—	ア
中世末期から20世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画・素描・写本作品	—	ア
指輪作品	—	ア
美術館教育 (児童を対象とした鑑賞教育、ファミリープログラム、障がい者を対象としたプログラム、ワークショップ、鑑賞ガイドの作成、生涯学習としてのボランティア制度運営など)	—	イ
松方コレクション	—	ア
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	ル・コルビュジエ財団	ア
美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築一方法の改善・発展と実践	科学研究費補助金、4年目	ア
松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作	科学研究費補助金、3年目	ア, ウ

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
現代美術の動向	—	ア
コロナ禍における共同キュレーションについての実践	森美術館	ア
具体美術協会について	大阪中之島美術館	ア
20世紀前半の西洋美術について	ベルクグリューン美術館 (ベルリン)、国立西洋美術館	ア
タイムベースド・メディアについて	—	ア、オ
1960年代から70年代の関西を中心とした前衛美術、パフォーマンスやエフェメラを中心とした研究	—	オ
「もの派」について	—	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪府教育センター	イ
美術館教育	—	イ
〈映像芸術の会〉の活動についての調査・上映	—	ア、エ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	—	ウ

近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築	昭和女子大学	ア
-----------------------------------	--------	---

(国立新美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
メトロポリタン美術館のヨーロッパ絵画	メトロポリタン美術館 (ニューヨーク)	ア
ダミアン・ハーストについて	カルティエ現代美術財団	ア
ルートヴィヒ美術館のコレクション形成に果たしたコレクターの役割	ルートヴィヒ美術館 (ケルン)	ア
李禹煥について	—	ア
西洋美術における「愛」の表現について	ルーヴル美術館 (パロ)	ア
近代以降の美術における光の表象について	テート	ア
パンデミック下で顕在化した現代社会の諸傾向と国内外の美術動向について	熊本市現代美術館	ア
イヴ・サンローランについて	イヴ・サンローラン美術館 (パリ)	ア
アンリ・マティスについて	マティス美術館 (ニース)	ア
ヴィセント・ファン・ゴッホとエドヴァルド・ムンク	ムンク美術館 (オスロ)	ア
日本の古美術と現代美術	—	ア
19世紀のイギリス美術	イギリス市立美術館ネットワーク	ア
美術館の教育普及事業 (ワークショップ、鑑賞ガイド等)	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
展覧会情報の収集・提供システム「アートコモンズ」の構築	—	ウ
展覧会情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」との連携	国立国会図書館	ウ